ステンレス製ボトル
再資源化に参画

リサイクル業の平林金属（岡山市北区下中野）は、水筒や調理器具など製造のタイガー魔法瓶（大阪府門真市）が進めるステンレス製ボトルの再資源化事業に参画した。廃棄ボトルをタイガーの原料として循環させるネットワークで、ボトルの破砕と素材選別を担当。資源を有効活用したサーキュラーエコノミー（循環型経済）に貢献するとともに、市民のリサイクル意識の向上を図る。（伊東圭一）

タイガー呼び掛け　平林金属応じる

水筒やスープジャーといったボトルを、メーカーを問わず回収。ステンレスや樹脂原料に戻し、タイガーのボトルや資材などに加工してもらう。タイガーの呼び掛けに、平林金属や樹脂製品製造の岐阜プラスチック工業（岐阜市）、京都府亀岡市など6社・団体が応じた。破砕と選別を行うのは今のところ平林金属のみで、今年2月に再資源化をスタートした。

同社が岡山、鳥取県内に展開する資源集積施設「えこ便」で回収したり、同事業の参画団体から受け入れたりしたボトルを、トレーサビリティー（追跡可能性）確保のため他の廃棄物と分けてリサイクルする。岡山市北区御津地区の工場で破砕した後、同市東区西大寺地区の工場でステンレス、銅、ポリプロピレンなどを分離し、素材メーカーに販売する。

回収したステンレス製ボトル

破砕と素材選別担当

ボトルの多くはステンレスが2層になった真空断熱構造。樹脂製の中栓やカバーが付いていたり、断熱性を高めるためステンレス層の間に銅はくを挟んだりした製品もあり、選別に手間が掛かるという。タイガーは2030年までに協力企業を100社に増やし、自社が国内で年間販売するボトルの10％相当量を回収する目標を掲げており、「リサイクル技術が高く、えこ便で一般家庭からの回収ルートを持つ平林金属の協力は心強い」とする。

平林金属によると、えこ便では月平均約500本のボトルを回収。担当者は「SDGs（持続可能な成長目標）の達成に合致した取り組みとしても意義は大きく、社会貢献のためにも力を入れたい」としている。

同社は1960年設立。資本金9980万円。売上高約210億円（21年12月期）。グループ従業員420人。タイガー魔法瓶は1923年設立。資本金8千万円。売上高373億円（22年4月期）。従業員770人。

破砕、選別したステンレス（上）とポリプロピレン。タイガー魔法瓶の製品や資材の原料として再利用される

2022年7月15日(金) 山陽新聞朝刊